

第11表

インバランス収支計算書

2020年4月 1日から
2021年3月31日まで

(単位 百万円)

費用の部		収益の部	
項目	金額	項目	金額
営業費用	138,217	営業収益	156,950
地帯間購入電源費	43,227	地帯間販売電源料	21,576
他社購入電源費	89,324	他社販売電源料	24,699
(インバランス対応取引費用)	38,065	(インバランス対応取引収益)	12,479
(インバランスの買取りに係る費用)	39,009	託送収益	106,130
社内取引費用	5,664	接続供給託送収益	106,130
(インバランス対応相当額取引費用)	432	(インバランスの供給に係る収益)	106,130
(インバランスの買取相当額取引費用)	5,231	(インバランスリスク料に係る収益)	416
		社内取引収益	4,543
		(インバランス対応相当額取引収益)	1,036
		(インバランスの供給相当額取引収益)	3,506
		(インバランスリスク料相当額取引収益)	25
営業利益(又は営業損失)	18,733		

- (注) 1 インバランス収支計算書におけるインバランスの供給に係る電力量は4,163百万kWh、インバランスの買取りに係る電力量は5,273百万kWhである。
- 2 財務諸表作成時点で未確定のインバランス料金に係る精算額は見積値により計上している。
なお、2020年度における確定額は、営業費用136,073百万円(地帯間購入電源費43,227百万円、他社購入電源費88,279百万円、社内取引費用4,565百万円)及び営業収益154,227百万円(地帯間販売電源料21,576百万円、他社販売電源料24,288百万円、託送収益105,898百万円、社内取引収益2,463百万円)である。
また、2020年度におけるインバランスの供給に係る電力量の確定値は3,931百万kWh、インバランスの買取りに係る電力量の確定値は4,900百万kWhである。
- 3 インバランスの供給に係る電力量及びインバランスの買取りに係る電力量については、集約期間における三十分を単位とした同一の時間帯において、バランシンググループ毎の電力量を積み上げる方法で算出している。
- 4 インバランスに係る債権の貸倒損及び貸倒損引当から貸倒損引当戻入を控除した額は、6,419百万円(引当額:税込み・実損:税抜き債権額を基に算定)である。
- 5 2018年度、2019年度に発生したインバランス単価及びエリアインバランス量の誤算定影響額を反映したことにより、インバランス収支の営業利益が367百万円増加している。
なお、2018年度における影響額は、営業費用△13百万円(インバランス対応額取引費用0百万円、インバランス対応相当額取引費用6百万円、インバランスの買取相当額取引費用△20百万円)及び営業収益△21百万円(インバランス対応相当額取引収益△27百万円、インバランスの供給相当額取引収益6百万円)である。
2019年度における影響額は、営業費用△254百万円(インバランスの買取相当額取引費用△254百万円)及び営業収益120百万円(インバランスの供給相当額取引収益120百万円)である。